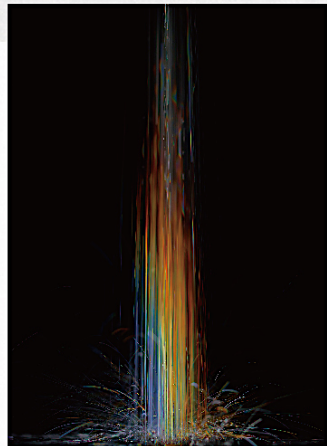


新・空間縁起

2023.7.27thu - 11.30thu
10:00-17:00 受付終了:16:30 火・水曜日は休館

南信州の山、川、谷を展望する屋根の上にスペクトルに展開する異形の建築は、30年前に開館したアンフォルメル中川村美術館です。第二次大戦後フランスに勃興したアンフォルメルの美術に共鳴した実業家で画家、詩人でもあった鈴木崚（すずき・たかし）が、異彩の建築家・毛根毅曠（もづな・きこう）に依頼して建てたものです。以来、県内でも数少ない現代美術館として中川村の人々が守り続け30年を迎えました。バブリーな時代を経て久しい「ポストコロナ」の今日、空間と身体をめぐる、今回7人の現代美術家が、この地のこの場所で新たな表現を展開します。



Light sculpture #20 2018年



丸山 晋一

(まるやま しんいち)
写真

テクノロジーを活用して、肉眼では見えない、薄い隠れた美を発見し、捉えたいと考えています。長野で生まれ育ち、好きな被写体にカメラを向けて楽しんでいました。東京や海外でさまざまな仕事をしてきましたが、今は撮りたいと思う被写体を模索中です。それはまるで原点に戻っていくようです。

space



(Steps) 2019年

象の鼻パーク横浜市
ZOU NO HANA
10TH ANNIVERSARY,
FUTURESCAPE PROJECT



持田 敦子

(もちだ あつこ)
インスタレーション

鈴木崚氏の構想のもとに、建築家毛根毅曠氏の設計したアンフォルメル中川村美術館の外部に、足場材を利用した仮設的な構造物をつくる。物語性が強い特徴的な建築空間に展開される構造物は、建築や周囲の景観と時に響きあい、反発しあいが立ち現れる。想定された建築の機能に反抗するように生み出される新たな動線により、空間を新たな視点から捉えることができる。

1989年、東京都生まれ。2018年、東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。バウハウス大学大学院修了。18~19年、ポーラ美術振興財団在外研修。18年、日本・キューバ現代美術展出演（キューバ/東京）。19年、フューチャースケープ・プロジェクト出演（象の鼻パーク/横浜）。21年、Open Stage 2021 - 拡張する収容庫（北加賀島/大浜）。北アルプス国際芸術祭出演（大町市/長野）。TERRAZA ART AWARD 2021 ファイナリスト受賞（寺田倉庫/東京）。23年、展覧による解体制作（佐田村/長野）



(sky cloud) 2020年 茅野市民総合運動広場/茅野市
Photo: 藤島昌之



塚田 裕

(つかた ゆろ)
絵画/インスタレーション

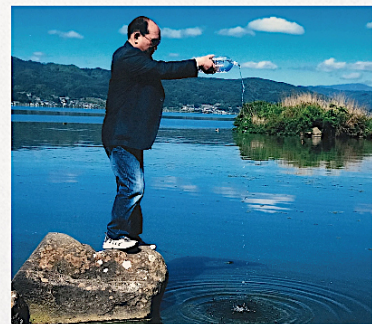
真板雅文が目にしたものが次々に素材となって、物質を超え、彫刻として現れる。初め写真や電灯などによるインスタレーション、次いで様々な場所で得たロープや布は芸術性さえ帯びた作品となり、やがて自然との関わりの中で、水にこだわった表現が続いてきた。急速する2年前に自身のアトリエ周辺の水田を使った大がかりなインスタレーションは、谷を隔てた甲斐駒ヶ宿の姿さえ取り込んだものだった。今展では水にかかわる作品を館の外で展示する予定。（赤羽）

1944年、中国東北生まれ。69年、現代国際彫刻展出演（彫刻の森美術館）。75年、現代日本彫刻展（宇都宮市彫刻美術館/山口）。76/85年、ヴェネチアビエンナーレ出演。94年、写真と彫刻の対峙 - 安齋聖男 真板雅文展（神奈川県近代美術館）。長野県立美術館の古民家をアトリエとする。95年、真板雅文彫刻展（札幌彫刻美術館）。97年、真板雅文展 - 音・竹水の間（下山芸術の森研究所美術館/富山）。99年、森に生きたち（箱根彫刻の森美術館）。2000年、越後舞育アトリエンナーレ出演。03年、真板雅文展 音・竹水の間（大原美術館）。07年、真板雅文アトリエ展開催（富士見町）。09年逝去。13年、真板雅文 あめつちの協奏（横浜真板美術館）。



宮坂 了作

(みやさか りょうさく)
絵画/インスタレーション/パフォーマンス



《雨紡湖に水を注ぐ》2017年：雨紡湖/湯田市

「水に水を注ぐ」。このパフォーマンスは最小の行為で最大の表現を求めた作品です。諏訪湖畔で水を注ぎ、太平洋の清水港で水を注ぎ、日本海の直江津港で水を注ぐ。地球上の海や川、湖の水に水を返す。ナンセンスで自然に寄り添うパフォーマンスだと思っています。また、この発想は日本の俳句のような短い言葉による宇宙の表現行為は何なのかの考えからです。アメリカのブルース・リーは、「カンフーの極致とは」の質問に、「水にない(Be Water)」と答えています。この言葉にはいろいろと深い意味があります。私も少しでもこの境地に近づきたいですね。Be Water!!!

1950年、長野県生まれ。70年、日本大学芸術学部入学。71年、現代美術家・高松敏之の私塾で学ぶ。72年、カリフォルニア芸術大学(CIA)留学。「ハブニング」の芸術家・アラック・カプローに学ぶ。大学構内で「ファイア・アップス・ティバリ」実施。73年、クーパー・ユニオン・アートスクール(ニューヨーク)に交換留学。74年、カリフォルニア芸術大学卒業(BFA)。75年、下諏訪町在住の観念芸術家・松澤幸也と出会う。2016年、在る表現 - その文脈と理論(茅野市美術館)。19年、シンピズム3（上田市立美術館）出演。21年、植物文字と地図の絵画（観音院ニューアートミュージアム）。22年、水のある美しい土のたし（アンフォルメル中川村美術館）。



(石のカプセル-F) 2011年



中谷 聡

(なかや さとし)
彫刻

中川村飯沼の圃田では地元の違い酒造の酒米が作られています。その8ヘクタール全部のワラを使う今回のインスタレーションは、壮大なプロジェクトです。中川西小5年生が植えた稲のワラも使わせてもらえることになりました。一年という時間の中で米を育てる大勢の人々がいてこそ、成り立つ作品です。ありふれた日々、あたりまえのようにある物や物事は中川村のおおらかで親しみ人々の気持ちや、植物が成長するサイクルの小さな奇跡の連続のようです。軽トラ25台分に及ぶ大量のワラは、この日常の先にあるものです。戦争の危機がある今だからこそ、僕個人の思惑を超えて平和でなければ存在しえない、そんな意味を持つ彫刻となればよいと思っています。

1966年、長野県生まれ。和光大学人文学部芸術学学位取得。2003~08年、真板雅文(1944~2009)のアシスタントを務める。05年、個展(みゆき画廊/東京)。07, 09, 11年、シウライニング国際音楽祭(オーストリア)招聘展示。09~17年、山中湖国際音楽祭(山梨)招聘展示。11~19年、個展(画廊 るたん/東京、松本市美術館市民ギャラリー、Gallery Amano/山梨)。20年、シンピズム3（茅野市美術館）出演。21年、個展 - INSIDE/OUTSIDE (原村ハケ岳美術館/長野)。



(氷桶) 1989年

真板 雅文

(まいた まさあき)
彫刻/インスタレーション



北澤 一伯

(きたざわ いちはく)
彫刻/パフォーマンス

2022年7月30日
「23の言葉による音伝」
松澤有100年祭

書物を知の体系の審視として捉え、場所に凝固する物質として美術の文脈に仮/編成する試み。地表より土を想像する時、そこには暗黒が詰まっていると感じます。未読の書物というものは、歴史的思考や物語が、あたかも暗闇に内蔵されているかのような。書物を場所に差し込み、隙隙を組み立ていく状況が光の照射に響(たど)えるならば、この試行は、書物と空間による時代の影を生みだすことになると考えています。



《書物と物質》2020年：マツモトアートセンター-GALLERY / 松本市